

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名 **嬉野市立吉田中学校**

**1 前年度 評価結果の概要**  
 ①地域とともにある学校づくりについては、「つながりを大切にし、未来を創造する【吉田学】の実践」というテーマで、ちゅうでん教育奨励賞に輝いた。志を高める教育は、これまでの地域と一体になった教育活動の実践と研究によるものである。また、国際交流・国際貢献については、多くの海外講師等を教育活動に取り入れ、体験的な活動ができた。②確かな学力は、全国・佐賀県学習状況調査の結果をみれば、大変良好である。しかし、これに甘んじることなく、新学習指導要領にそった「深い学び」を教師が探求していく必要がある。③豊かな心の教育については、道徳教育・人権・同和教育ともに、充実した教育活動が展開できたため、子供同士の交友関係がよくなった。④安全で安心な学校づくりは、ケース会議の内容を充実したり、専門機関を活用したりして、個のニーズに応じた支援ができた。食育では、2年連続、県の表彰を受け、家庭の協力と生徒自身の意識の向上が図られた。⑤の働き方改革では、行事の精選面で改善できたが引き続き、部活動時間の軽減を図る必要がある。  
 ○次年度の取り組みとしては、深い学びについての研修を重ねるとともに、生徒たちが考えを伝えあい、学びをアウトプットできる力を向上させる。また、心身ともに健康で、どの生徒も学校生活を生き生きと過ごさせたい。

**2 学校教育目標** **賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9カ年の学びのなかで～**

**3 本年度の重点目標** **①確かな学力の育成、②豊かな心の育成、③健全な心身の育成、④働き方改革、⑤地域とともにある学校づくり**

**4 重点取組内容・成果指標** **中間評価** **5 最終評価**

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上とする。	・校内研修等で学力向上対策シートを用いて教職員間でマイプランを共有し、取組の促進を図る。	B	・年度途中であるが、マイプランを意識して授業へ望むことは周知しているが、個人の実践が十分とはいえず、達成に至る職員が少ない。今後達成に向け推進していく。	B	・マイプランを意識して授業実践を行い、成果指標を達成できたと答えた職員の割合が増えた。個人の取り組みが充実した結果、12月の県の学習状況調査ではほとんどの教科で県の正答率を上回った。今後は、今回の調査の結果を分析し授業に生かすことが必要である。	B	・子供達の学習進度に影響があるため、ぜひ次回はA評価となることを願っています。	学力向上対策コーディネーター
	○「吉田メソッド」の深化	○相手意識や目的意識をもった「伝え合い活動」を授業で実践した教師を80%以上とする。	・①相手意識・目的意識をもった課題設定の工夫 ②思考が深まるような「考える」「伝え合う」過程の工夫 ③「ふり返り」を生かす工夫の3つを意識して授業を行う。	A	・「伝え合い活動」を実践し、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を行っている。回答した職員は80%であり、学習内容の理解に役立っている。回答した生徒は98.2%であった。 ・小中合同研究などの連携が十分に取れている結果と受け止め、今後も継続していく。	A	・「伝え合い活動」を実践し、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を行っている。回答した職員は91.7%であり、学習内容の理解に役立っている。回答した生徒は98%で「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の実践につながっている。 ・年5回の小中合同研究会や年2回の授業研究会を行い、「吉田メソッド」の見直し・改訂、生徒・職員の意識アサーメントを2回実施(7月・12月)し、結果の分析や考察を行った。	A	・素晴らしい取り組みだと思います。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒の育成していくために、全教職員が人権・同和教育に取り組む。	・道徳の研修の充実 ・生徒主体の人権学習の推進	A	・道徳の授業を計画的に進めることができていない職員が87.5%であり、道徳の授業などで自分の心を見つめることができていないと回答した生徒は94.3%であった。 ・今後は12月に人権集会を予定しており、さらに生徒の豊かな心を育てていきたい。	A	・道徳や人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒98.1% ・道徳科の研究授業、事後研究会を3回実施し、教員間の研修、共通理解を図った。 ・11月に保護者参観のふれあい道徳を実施し、24名(45%)の参加があった。 ・生徒を中心とした人権集会を2回実施し、戦争や世界平和、いじめやコロナ感染に伴う誹謗中傷等について考える機会とすることができた。	A	・子供達の自主性向上に向けた取り組みをお願いします。 ・新型コロナウイルス感染症に伴う、誹謗中傷等について考える事はとても重要な事だと思います。	道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生徒・保護者のいじめのない学校という肯定的な評価80%以上をめざす。	・自他を尊重し、支持的風土のある学級・学校づくり ・アンケート等による早期発見と組織的対応と教育相談の充実	A	・生徒の92.5%がいじめのない学校づくりを肯定的にとらえていて、保護者も86.9%と高い水準であった。しかし、7.5%の生徒はあまり当てはまらないと回答している。この生徒達への手立てを考えていきたい。 ・「先生あつね」(生活アンケート)を毎月実施し、定期教育相談等で早期発見・対応につなげた。	A	・生徒の94.3%がいじめのない学校づくりを肯定的にとらえていて、保護者も85.3%と高い水準であった。しかし、5.8%の生徒はあまり当てはまらないと回答している。で、まだまだ手立てが必要である。「いじめ問題」についての対応の職員研修を行った。 ・「先生あつね」(生活アンケート)を毎月実施し、定期教育相談等で早期発見・対応につなげた。「相談箱」を設置し、より相談しやすい環境を整えた。	A	・吉田はいじめは少ない方と思っています。地区民としても子供達の観察ふれあいを充分行う事で、良くなると感じます。 ・中間評価でありあてはまらないと回答した、7.5%が気になります。	生徒指導主事 教育相談担当
	◎自らの夢や目標の実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を培う教育活動の推進	○将来の夢や目標の実現に向けて努力する気持ちをもつ生徒80%以上をめざす。	・全校スピーチなどを通して自らの夢や目標を語り合うことで、生徒の将来設計能力や意思決定能力を高める。	A	・88.7%の生徒は学活や総合学習の時間に自分の進路について考えるようになったと答えている。その一方で保護者は63.8%であり、生徒と保護者と開きがあった。家庭で将来のことについて話をしたり相談したりする機会が少なかったのではないかと推察する。 ・発達段階に応じた系統的な進路指導や、自分の将来について考え言葉で表現する機会である全校スピーチを今後も継続して実施する。	A	・将来の夢や目標を目指し、進路について考えていると回答した割合は、前回同様、生徒よりも保護者の方が低かったが、その割合は生徒90.3%、保護者70.4%と両者ともに上昇した。学活や道徳、総合的な学習の時間の学習の成果が出ていると考えられる。 ・全校スピーチについては、コロナ対策ということで、終盤はリモートで行った。	A	・生徒と保護者の温度差があるので幅があるのは仕方ない事と思います。 ・将来の夢や目標についてのアンケートに職業のことは考えていると思うが、自分の性格等を考え、どんな人間になりたいかを含めて考えてもらいたい。	進路指導主事 総合的な学習の時間担当
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上をめざす。	・個別の健康観察を実施し、基本的な生活習慣の改善を図る。 ・食育だよりの発行、内容充実を図る。	A	・「早寝・早起き・朝ご飯」実践カードや学校からの便利(食育だよりの発行)を通して家庭と連携し、朝食喫食率が96.3%と高い水準になった。残り3.7%の生徒への働きかけを考える。	A	・「早寝・早起き・朝ご飯」実践カードや学校からの便利(食育だよりの発行)を通して、食育週間での広報を充実させた。朝食喫食率が98.1%と前回より増加し、高い水準になった。残り1.9%の生徒への働きかけを考える。 ・関係機関と連携し、「食育教室」を実施し、食育の充実を図った。	A	・1.9%の生徒は食事をしないのか、出来ないのか見極める必要があるのでは。 ・個食の問題はあまり聞かないが、実態はどうだろうか。	給食・食育担当 保健主事
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の生活事故・交通事故0(ゼロ)をめざす。	・交通安全教室や避難訓練の際に自他の安全について生徒が意識できるようにする。	B	・登下校時や校内でのルールが守れていると答えた生徒は96.3%であり、学校は生徒の安全を守るよう努めていると回答した保護者は95.8%であった。しかし、年度当初の自然災害への対処では後手に回る部分も有り改善の余地が残されている。 ・職員も生徒の安全安心については細心の注意を払い指導している。加えて、自然災害等で迅速な判断が求められる。	A	・登下校時や校内でのルールが守れていると答えた生徒が100%になり、学校は生徒の安全を守るよう努めていると回答した保護者は97.7%と増加した。 ・教員職送等の重大な事故はなく、生徒のけがや病気の対応は適切であった。また、感染防止対策も充実させ、生徒の安全安心については細心の注意を払い指導している。	A	・地域としても見守り、観察を充分に行います。 ・素晴らしいと思います。これからも継続をお願いします。 ・感染防止対策は大変。また、自然災害で川の近くの安全対策も大事である。	生徒指導主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・時間外勤務時間、月45時間以内を目指す業務改善	B	・10月までの全職員の平均値で36時間15分を時間外勤務時間は月45時間を下回っているが、月別に見ると学校行事や部活動などで上限を超える職員が見られるので、この数を減らすようさらなる見直しを行う。 ・コロナ禍の中、行事や出張等が制限され、これまでは違う工夫をしながら業務改善を推進する必要がある。	A	・11月から1月までの全職員の平均値は29.4時間、通年では34.17時間であり、時間外勤務時間は月45時間を10時間以下下回った。 ・コロナ禍の継続に伴い対処法が徐々にわかようになってきた。 ・コロナ禍の継続に伴い出張等が制限され、これまでは違う工夫をしながら業務改善を推進する必要がある。	A	・先生方も働き方大変だと思います。 ・これからも事務等の効率化を目指してください。 ・新しい生活様式に合わせた働き方を。	管理職
	○部活動の休日及び活動時間の適正化	○部活動休養日の設定を週2日(平日1日休日1日)の徹底を図る。	・平日は定時退勤日と水曜日を休養日とし、休日は県一斉休養日を含み1日以上休みをめざす。 ・部活動終了時刻の見直しを図る。	A	・平日1日、休日1日の部活動休養日は確実に休むように努めている。(大会等で休日休めない場合は翌週の平日に振り替えている。) ・今後、平日の休養日と部活動終了時刻について見直しの予定。	A	・平日1日、休日1日の部活動休養日は確実に休むことができています。(大会等で休日休めない場合は翌週の平日に振り替えている。) ・平日は原則、定時退勤日と会議や研修のある水曜日とする。部活動終了時刻は若干の修正を行う。	A	・創意工夫して頂きありがとうございます。 ・休める時は積極的に、心身の休養をとってください。	管理職 部活動担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域とともにある学校づくり	○つながりを大切にし、郷土愛を育む「吉田学」の推進	○地域と連携したボランティア活動への参加生徒数を全校生徒数の60%以上にする。	・「吉田学」を実施する際に、地域人材を活用する。 ・地域から学ぶだけでなく、地域に還元する活動を取り入れる。	—	・新型コロナウイルス感染症の影響により中間段階での評価が困難であるため。	C	・新型コロナウイルス感染症の影響により地域に向いて行うボランティア活動は目標の60%の達成は困難であった。(参加率38%) ・地域人材の活用については、家庭科の調理実習や美術の陶芸などコロナ禍の中でも可能なものは実践した。その中で「うれしかったまつり」では、2年生が美術の時間に制作したランブシェードを展示する形で貢献することができた。	B	・今年度はコロナ関連で事業もなく、もしあっていたら参観できていると思います。 ・活動に制限がかなり達成できなかったもので、工夫しながら活動されていたのであるから評価は上げていいのでは。 ・コロナ禍での他者との関わりは、学校の様子を知らせる写真やお便りなどでの交流もあると思う。	管理職 教務主任

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

**5 総合評価・次年度への展望**  
 ・学力の向上の項目では「伝え合い活動」はほとんどの職員が意識して授業の中に仕込むことができた。生徒も学習内容の理解につながっていると答えている。マイプランについては意識の高まりが見られ、個人の取組が充実したことにより、学力状況調査の結果も高い数値を示し良好な結果となった。ただ、学力向上対策シートとの関連づけがまだ十分とは言えず強化する必要がある。  
 ・心の教育の項目では豊かな心を身につけるための道徳教育、人権・同和教育ともに、充実した教育活動が展開できた。また、生活アンケート等を活用して、いじめの早期発見・早期対応を図った。夢や目標の実現に向けて生徒と保護者で意識の開きがあり、改善させたい。  
 ・業務改善・働き方改革の項目ではコロナ禍の中、学校行事や部活動など工夫改善がなされたところもあり、時間内での業務遂行ができ、時間外勤務時間の削減につながった。  
 ・地域とともにある学校づくりの項目では、コロナ禍にあり、学校行事や地域交流事業等が中止されたり、制限を受けたりした。特に例年参加していたボランティアは全て参加できなかった。次年度以降コロナ禍が終息したら、これまでに以上に参加させたい。